



平成 14 年 9 月 11 日

各 位

東京都千代田区神田駿河台三丁目 11 番地  
インフォコム株式会社  
代表取締役社長 沼 惇  
(コード番号: 4348)

### 神戸大学につづき、図書館情報大学の電子図書館システム再構築を受注

当社は9月3日、国内の国立5大学(京都大学、筑波大学、図書館情報大学、神戸大学、東京工業大学)で実施されている電子図書館のうち、図書館情報大学のシステム再構築を受注いたしました。

これにより、8月30日の神戸大学に続き2つ目の電子図書館システム受注となり、国立5大学のうち2大学においてインフォコム製の電子図書館システムが稼動することになりました。なお、同大学は本年10月より筑波大学との統合を予定しており、今回のシステムは知的コミュニティ情報システムとして次世代の電子図書館を目指す先進的な仕様となっています。

図書館情報大学ではこれまでDublinCoreメタデータを中心とした電子図書館システムの公開を行ってきました。このたびこれに加えて、DublinCoreメタデータに連携する教育学習情報メタデータ(IEEE LOM)・デジタルアーカイブメタデータ(OAIS)・マルチメディアメタデータ(MPEG7など)等あらゆる種類のメタデータを統合管理・編集公開・統合検索可能な、次世代型の電子図書館システムへと再構築することになりました。Webの世界で蔓延しているメタデータに対して、これを高度に応用できる方法を研究する、知的コミュニティの基盤システムとして活用していきます。

当社は、世界中のZサーバを横断検索する国際標準検索プロトコルZ39.50への対応を始め、多様化するWebコンテンツを高度に情報活用できる仕組みとして、DublinCoreメタデータを扱うマルチメディア統合検索システムパッケージ「InfoLib」を開発販売するなど、わが国の電子図書館のリーディングカンパニーとして活動して参りました。今回の図書館情報大学における電子図書館システムについても、この「InfoLib」を核とした提案を行った結果、同業他社に比べ高機能かつ使い勝手の良いシステムを低価格で構築できることが評価され、採用いただくことになりました。図書館情報大学の次世代型電子図書館システムは、2003年2月3日のリニューアル稼動を予定しております。

(参考情報)

DublinCore

ネットワーク情報資源の書誌情報を記述するための国際標準規格。

1995年、米国オハイオ州ダブリンで開催されたワークショップで提案され、RFC2413 や NISO Z39.85として標準化されている。

現在は様々な電子情報のメタデータ規格がDublinCoreと連携しており、DublinCoreを利用することで情報資源の横断的な検索と活用が可能。アーカイブビジネスに高度な利便性を提供できる。

当社の電子図書館システム「InfoLib」においてもDublinCoreを標準採用している。

以 上

(問合せ先) 業務 IR 部長 橋本 達也

電話 03 - 3518 - 3160 ( 広報・IR )

E-mail : [t-hashimoto@infocom.co.jp](mailto:t-hashimoto@infocom.co.jp)

URL : <http://www.infocom.co.jp/>